



津屋崎中学校のホームページ
 をご覧ください。

◀ 2年生は、12月、修学旅行に行きました。 ▶

2年生の修学旅行は、12月17日(土)～19日(月) 2泊3日で、関西方面に行きました。1日目は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)、2日目は、京都市内班別自主研修、錦市場自由散策、3日目は、奈良公園という行程でした。USJでは、それぞれのエリアやアトラクションに非日常的な空間を体験し、笑顔や満足した様子がうかがえました。京都・奈良では、事前に学習した日本の文化・歴史を間近で見ることにより、それら世界遺産や国宝の素晴らしさに感動し、さらに学習を深めることができました。また、生徒の実行委員を中心に「心輝一展 ～何気ない一つ一つが輝く学年へ～」というスローガンのもと、しっかりと活動が行われ、班行動をはじめ集団行動や係活動を通して、自主性、責任感等を高めることができました。「静かで、とてもマナーがよかった。」と新幹線で同乗されていた一般の方からも褒められていました。

たくさんの体験や思い出をつくることができ、大きな成長につながりました。スローガンのとおり、自分の役割に責任をもち一人一人が輝き、全員で支え合い高め合うことのできた修学旅行でした。コロナで少し制限されたところもありましたが、その中でも全員が笑顔で終えることができたことに感謝し、修学旅行で学んだことを今後につなげ、学年でより高め合っていきたいです。【修学旅行実行委員長 村瀬絢音】



◀ 3年生の古木さんが税の作文で、国税庁長官賞を受賞しました。 ▶

租税教育推進活動の一環として、税を正しく理解し税について考える機会をもつことを目的として、全国納税貯蓄組合連合会と国税庁の共催で「中学生の税についての作文募集事業」が実施されています。3年生は社会科の「税の授業」を受けて、毎年、税の作文を書き応募しているところですが、その中で古木凛音さんの作文が、優秀な作文として国税庁長官賞を受賞しています。次は、その作文です。【写真：税務署長より表彰される古木さん→】



題名「祖母が伝えた『みんなのお金』」津屋崎中学校3年 古木凛音

～略～ 私の祖母は、ファブリー病という難病を患っていた。そのため心臓が悪く、ペースメーカーを入れていた。それでも毎日、仕事場である大学に通い、休日に会いに行くと一緒に遊んでくれた。とても優しい祖母だった。そんな祖母は「タクシー券」というものを市から支給されていたのだが、毎回それを市役所に返していた。「タダでタクシーに乗れるのに、どうして返すの？」と私は祖母に尋ねたことがある。すると祖母はこう言った。「ばあばは、自分で歩いて電車に乗ることができる。みんなのお金だから、本当に困っている人にそのお金を使ってほしいのよ。」幼かった私は、その時祖母が言った「みんなのお金」という意味がさっぱりわからなかった。祖母の胸元に入っていた小さな四角いペースメーカー。このペースメーカーを入れる手術も、全額祖母が負担するのではなく、大きな医療費がかかる場合に使われる高額医療費制度というものに、私たちの税金は使われていたのだ。祖母は治療のため二週間に一度、大きな病院へ点滴に通っていた。この治療の七割は税金によって支えられていたことを知り、私はとても温かい気持ちになった。

祖母はとても強い人だった。いつも笑顔で優しく、そして周りのことをよく考えることができた人だった。

心臓が悪い中、毎日通勤するのは正直きつかったと思う。通院にタクシー券を使えば、少しは楽ができたかもしれない。でも、「自分より困っている人がいるから。」と、人を思いやることを忘れなかった祖母を私は尊敬する。一人分のタクシー券を返却しても何も変わらないかもしれない。そんなことを言わずに黙って使えばいいのに、と言う人もいるだろう。しかし税とは、この「思いやり」の上に成り立っているのだと思う。

人は誰しも明日も健康でいる保証などない。自分が払った税金は、めぐりめぐって自分を助け、人を助けている。医療ではなくとも、どこかで誰かの役に立っているのだ。そしてそれは祖母の言う通り、困っている人のために使われてほしい。

祖母は60才で亡くなった。心臓発作だった。さようならを言えなかったこと。ありがとうを伝えることができなかったこと。祖母の家に置かれてある、焦げてしまったペースメーカーを見るたびに今でも悲しくなることは多々あるけれど、祖母の言った「みんなのお金」の意味が十四歳でわかり、なんだか誇らしくなった。

ばあば、私もばあばのように「みんなのお金」を大切に使い、人の役に立てる大人になるよ。

◀ 生徒会の専門委員長が決まりました。 ▶

2学期に、生徒会役員(会長・副会長・書記)選挙の結果をお伝えしましたが、次に、生徒会専門委員長が決まりましたのでお知らせします。

学級生活委員長・小林翼牙さん・安部桃愛さん、環境委員長・庄司光希さん・野見山凛さん、学習文化委員長・三浦颯一郎さん、首藤夏帆さん、保健体育委員長・北崎利旺さん・村瀬絢音さん、図書委員長・河野隼大さん・中島七海さん、給食委員長・岩下優斗さん・彌富奏波さん、以上、2年生、12名が任命されました。

◀ 1年生は、11月、宿泊体験学習に行きました。 ▶

1年生は、仲間と協力して宿泊体験学習をすることを通して、協力することの大切さを感じるとともに集団行動のルールやマナーの向上を図る等の目的で、11月21日～22日、国立山口徳地青少年自然の家で一泊二日の宿泊体験学習を行いました。生徒の実行委員が作ったスローガンは、「全員で協力し、感謝の気持ちと責任感をもって、全力で楽しむ宿泊体験学習にしよう！」で、「協力」や「責任」、そして「楽しむ」に視点を置いた目標が、学年生徒に浸透し、達成できて有意義な体験になっていました。

次は生徒の作文の一部です。「みんなで TAP や焼き板細工に取り組む中で、一緒にやり遂げる楽しさと達成感を知ることができました。」「TAPで、人と協力して達成できた時のうれしさを味わうことができました。人それぞれの得意、不得意のある中、助け合ったり、声をかけあったりすることによって、みんながよい気持ちで終わることができたので、とても良い経験がすることができたなと思いました。」「1日目の係活動は、うまくいかないことの方が多かったけれど、2日目にしっかり係の仕事を行うことができました。普段の班活動などにもどんどん生かしていきたいと思います。」「TAPでは、いろいろな仕方で、友達と協力しました。できた時の達成感は今でも忘れません。すごくいいことを学びました。最後まであきらめず話し合っって案を出しながら、みんなでできて楽しかったです。」



◀ 2学期終業式、1年生代表の作文 ▶ 1年生 島本加瑛

『私が二学期一番成長したことは、人の前に立つ力が一学期に比べてついたことです。文化祭では、合唱の伴奏をしたり、部活で演奏をしたりしました。委員会活動でも、クラスのみんなに指示を出し、まとめることができました。一学期はこのようなことがほとんどできませんでした。でも、この二学期にできることが急に増えて良かったです。三学期もこれを続けていきたいです。勉強の面は、中間テストではあまり良い点数がとれませんでした。とても悔しかったです。期末テストでは、中間テストでできなかった問題を徹底的にやり直し、授業で使ったプリントを見直して、分からないことをなくしてきました。その方法が自分に合っていて、中間テストよりも良い点数をとることができました。自分に合った勉強を見つけることができたので、これからも続けていきたいです。三学期には、二学期できるようになったことを生かすのはもちろん、できなかったことをできるようにすることも頑張ります。例えば、授業中の発表です。二学期はあまり手を挙げて発表ができませんでした。考えはあるのに恥ずかしさや自信の無さが勝って、なかなか手を挙げることができません。そこが自分自身の解決すべき課題だと思うので、積極的に手を挙げ、恥ずかしさを捨てて、たくさん発表ができるようになりたいです。このような課題を解決し、二年生になるための準備期間として、さらに成長できる三学期にするために、二学期の残りの時間や冬休みを使って、自分を見直し、悪いところをなくしていけるように努力していきたいです。』